

距離感を拭い去るための建築

指導教員 吉松秀樹教授 印

OBEB2232 李 英殷

1. 壁に対する私のトラウマ

私にとって壁は大きな意味がある。韓国と北朝鮮は朝鮮戦争の結果、祖国を南北に分断される現実に置かれている。私の国は一つの民族が目に見えない壁によって二つに分かれた世界唯一の分断国家である。しかし、いつ戦争が起きるかわからない状況でも私たちは一日も早く一つになることを望んでいる (fig.1)。



fig.1 分断そして離散家族の再会

2. 壁の穴の関係性

同じ目的や文化を持ったコミュニティの間に壁を立てると二つのコミュニティができる。その壁にまた穴を開けると、一つにならず新たなコミュニティが起きると考えた (fig.2)。

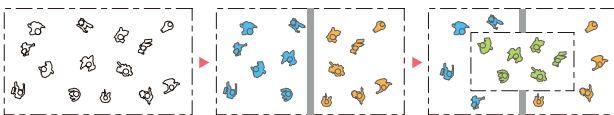


fig.2 壁と穴の関係性

3. 社会に阻害される建築プログラム

社会の中には孤児院や老人ホームのような社会的弱者のために作られた建築プログラムがある。その中に孤児院は幼稚園と機能的に似ているが偏見という見えない壁によって隔離されていると感じた (fig.3)。

このような見えない壁を無くすためには壁の存在を認め、お互いの理解と興味を持った上でのコミュニケーションをしようとする動きが必要ではないか (fig.4)。

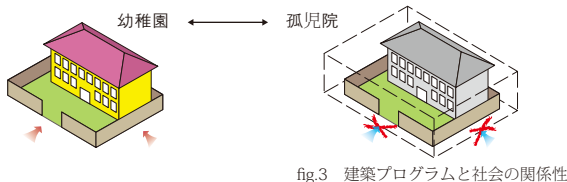


fig.3 建築プログラムと社会の関係性

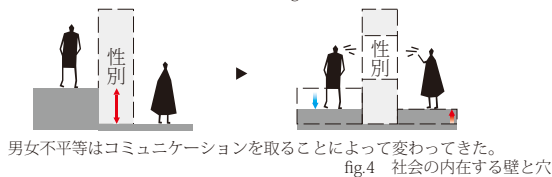


fig.4 社会の内在する壁と穴

4. 見えない壁を拭い去るため

孤児院のような見えない壁を拭い去るためには、あえてその壁を視覚化し中の様子を伝えないことだと考えた。そうすることで中に対する興味をより強く感じ、コミュニケーションの欲求も高められる (fig.5)。

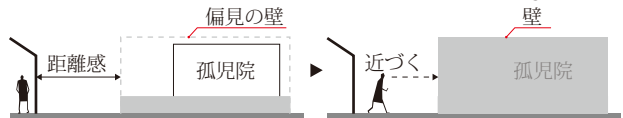


fig.5 視覚情報による人の行動

5. コミュニケーションが高まる住環境

現代は個人のプライバシーが大切にされることによって周りとのコミュニケーションが取りにくくなった。プライバシーの大切が無意識的に自分の周りに壁を建てたかもしれない。しかし、震災後に周り助け合うことがどれだけ大事なかがわかるようになった。

コミュニケーション欲求を高めるためには住宅の周辺を建築化し、中の様子を周りに伝えにくくさせることだと考えた (fig.6)。小さい穴を開けることで、さらにコミュニケーション欲求が促進される。



fig.6 壁とコミュニケーション欲求の関係性

住宅情報が丸見えている壁が低い住宅に壁を高くし、得られる情報を減らす。壁にくぼみを入れ、隣接住宅と共有空間を設けたり小さい穴を開けて少し情報を提供することで近づくようになる (fig.7、8)。

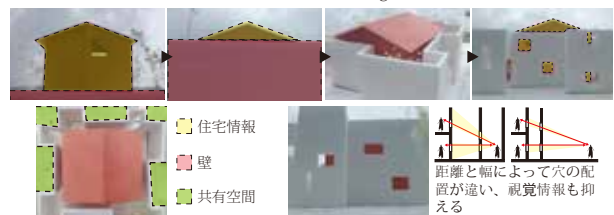


fig.7 住宅情報を減らしコミュニケーションを生む

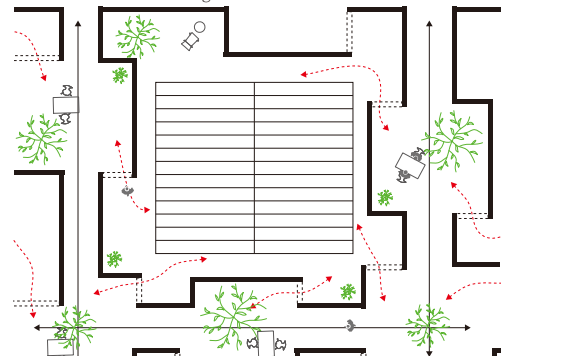


fig.8 コミュニケーションが生まれる空間